実践報告

ことばの力を信じるほうへ
－臨床実習生証明書授与式で手渡してきたことばたち－

林　耕司
長野医療衛生専門学校　言語聴覚士学科

Believe in power of words – messages presented to clinical training certification award ceremony –

Koji　Hayashi

Nagano Medical Hygiene College

要旨：言語聴覚士とは「言語」聴覚士。言語聴覚士の卵である学生たちにはなによりも「ことば」のもつ力を信じるものであってほしいと思ってきた。だから、実習に対する決意を新たにし、実習に臨むにあたっての責任と自覚を育もうと5年前から挙行されている儀式である臨床実習生証明書授与式にあたって、筆者は本校で過ごす中で大事にしたいと感じたことや、大事にしてもらいたいと思ったことばたちを学生に贈っている。それらは「自分にびっくりしよう」「未来に挑む」「JUMP」「なる」「変身」「ただの人として」という題で語ってきたことばたちである。本報告ではそのはなむけのことばたちを紹介した。
キーワード：ことばの力　言語聴覚士　臨床実習生証明書授与式　臨床実習　はなむけのことば

1、はじめに

僕らは「言語」聴覚士。言語聴覚士の卵である学生たちにはなによりも「ことば」のもつ力を信じるものであってほしいと思っている。だから、5年前から本校で行われてきている臨床実習生証明書授与式にあたっては、僕が本校で過ごす中で大事にしたいと感じたことや、大事にしてもらいたいと思ったことばたちを学生に贈っている。そして、そのことばたちを力にして臨床実習を乗り越え、まずは言語聴覚士としての一歩を力強く踏み出してもらいたいと思っている。

確かに臨床実習にあたっては大きな声ではきはきと挨拶し返事し、いろんな物事に配慮し、臨床を観察し、記録をとり、分析・考察するというような実践的コミュニケーション能力や知識を総合して考える理知力が求められている。そして担当した患者様が今後どんな生活を送っていかれる方なのかということが考えられる豊かな想像力も求められている。

しかし、臨床家として自分の志を長きに亘って果たしていくための土台にあるのは自分が人生にどういう態度で向かい合い生きていくのかということだと僕は思ってきた。自分とは何か、人生とは何か、生きるとは何か、いのちとは何かという

長野医療衛生専門学校
〒386－0012　長野県上田市中央 2-13-27
info@nagano-iryoueisei.ac.jp

ことに向かい合うことなしには患者様やご家族、リハビリスタッフに信頼されるセラピストにはなっていかないだろう。僕が本校にお世話になって早6年。長きに亘って長野赤十字病院で病に、障害に見舞われた人々を相手に生きてきた人生だったが、退職後は二十歳前後の健康に恵まれた元気な若者たちに囲まれて陽気に上機嫌で過ごすことになった。この6年間の学校教員生活で日々なにごとかを想い考え、成長を遂げようとしてきたように思う。そんな僕の日々の想いが詰まっているのが授与式で語ってきたことばたちだと思っている。そのおおもとには臨床実習を自分なりにやり通して一段と成長していってほしいという願いと共に、しっかりとした人生に対する態度を養い、自分が人生を通じて頼りにできる座右の銘を見出してほしいという願いもある。

以下、5年前から臨床実習生証明書授与式で語ってきたことばたちを掲げてゆく。ことばを信じるほうへ誘えたなら幸いである。

2、臨床実習生証明書授与式で語ってきた「はなむけのことばたち」

2－1　自分にびっくりしよう

今日は3年生の晴れの日。おめでとう！自分を抱きしめよう！よくここまで頑張ったと言って自分を抱きしめよう！入学した時は何も知らなくてうろうろしてたじゃないか。新しい世界にぐるっとした日から2年3か月、あんなに何も知らず力もない自分がなんとか頑張って努力して溜息ついてはいつくばってここまできたじゃないか。そんな自分がこの世界に生きている。すばらしいことじゃないか。そして、今日は「すばらしくやりがいのある言語聴覚士という臨床家」と真新しく書かれた真新しいドアを開ける日だ。こんな晴れの日にたどりついてる自分にびっくりしよう。そして、おおいに自分をほめよう、ほめちぎろう。

国家試験突破というハードルは非常に高い。でも、高ければ高いほど気力が充実してくる。一人で頑張るな、みんなで頑張ろう。チーム池上！期待している。今日はおめでとう！

（2014年6月　第12期生　臨床実習生証明書授式にて）

2－2　未来に挑む

僕が日赤を退職しこの学校にお世話になるようになって2年が経ちました。最近のある日、4年生に臨床実習から逃げてはいけないと語りました。そうしたら、/逃げる/という漢字がとても気になるようになり、旁の部分をなす/兆/という漢字にひかれるようになりました。一十百千万億兆そうかこれは「おびただしい」という意味だから「逃げるんならとことん逃げるんだな」と納得しました。そして、/兆/という旁に身体の一部の目をつけると/眺/、足をつけると/跳/、手をつけると/挑/になることを知りました。おびただしいものを眺め、幾多のものに挑み、高く高く際限なく跳ぶイメージが僕にはやってきました。そして、しばらくしてから/兆/は「きざし」とも読めることにふと気づきました。ここでも自分なりにそうかそうかと手で膝を打ち納得しこれらの漢字が意味するところがストンと胸に落ちました。なるほど/春の兆し/と書くなあと思いました。だから、未来を眺め、未来に向かって跳び、未来に向かって挑む。これら/兆/に関係する漢字たちはすべてよき知らせ、つまりよき未来に関係しているのだということがストンとわかったのです。

さて、皆さんが失語症の佐藤房雄さんから実際に受け取った情報はおびただしいものがあるでしょう。彼に会い、彼を考え、彼の明るさに照らされて検査法・評価法を考える貴重な経験をしました。養護学校の実習でも皆の中には整理しきれないたくさんの情報が入ってきていることでしょう。なぜこんな大変な緊張を強いられることをしなくちゃいけないのかということがふと頭をよぎることでしょう。この場から逃げ出したいと思うこともあったでしょう。遠田くんが言いました。「ほんとうにすばらしいものを手に入れるためにはほんとうに大変なことをくぐりぬけなきゃいけない」と。その通りだと思います。奥原くんが言いました。「世界は自分であり、自分は世界そのものだ」と。そう、この世この世界をどうとらえて生きていく

かがあなたがたの生き方を変えていくでしょう。だから、おびただしいものを眺め、考え、挑み、できるだけ眺めのいい高みへと跳んでいってほしいと思います。

佐藤房雄さんの実習が終わったあと僕にはすてきなプレゼントが待っていました。なんだと思いますか？ 3年生の佐藤さんが僕が置き忘れてきた白衣を持ってきてくれたのです。「先生の抜け殻です」と言いながら僕の白衣を手渡してくれたのです。いやあその巧まぬウイットにびっくりしました、にっこりしました。そうなんですね、わかりました。臨床実習生証明書授与式とは殻を脱ぎ捨て、さなぎからいよいよ蝶になり高みを目ざして飛び立つ日なんですね。ある種の蝶は何百キロも風吹きすさぶ海の上を移動すると言われています。さあ、どれだけ高く跳べるか、どれだけ挑めるかの日々が今日から始まります。そして、なによりも大切なことは皆で助け合って切磋琢磨していくことです。最後に皆を励ます歌を贈ります。♪始まるよ始まるよ始まるよったら始まるよ♪十二と十二で二十四の瞳♪そう、みんなには二十四の瞳があります。百万馬力です。頑張ってください。今日はほんとうにおめでとう。

（2015年7月　第13期生　臨床実習生証明書授与式にて）

2－3　JUMP

僕の六月の朝にはいつもかっこうがいる。かっこうかっこうかっこう、明るい野太い声が空一面に木霊する。そして、僕はかっこうの声を聞くとかっこうという音の連なりから、いつもALS（筋萎縮性側索硬化症）で亡くなった克子さんを思い出す。克子さんの愛したヒマラヤ杉を思い浮かべる。進行の速かったALS。発症2年で亡くなった52歳の彼女。私の思い出にまつわるものは一切残したくないと言った彼女。でも、文学好きの僕の手元には娘さんから戴いた遺品の部厚い書物が残った。たとえば、フーコーの狂気の歴史、澁澤龍彦のマルジナリア。強靭な思考力を鍛えよとでもいうかのように彼女の硬質の本たちは僕の本棚にいつも佇んでいる。

このような出会いを思い出すと、自分の生き方がある患者さんとの出会いを決めてきたのかも知れないと思う。臨床とはいつもそういう出会いを用意している場だ。だから、あなた方が今どう生きているか、これからどう生きていくかが未来の出会いを決めていくのかも知れない。だから、みんなには未来の出会いにしっかりと寄り添えるよう、今日をきばって精一杯生きてほしいものだと思っている。卵は割らなければオムレツにはならない。さあ、一つ大きな深呼吸をして、迷わずおもいきりJUMPしてみよう。JUMPして、JUMPしてどこまで届くか楽しみに、まずは見学実習一週間を思いっきり駆け抜けよう。最後に詩＜かっこうが鳴く＞をみなさんに贈ります。

＜かっこうが鳴く＞

梨の花が白い花を咲かせ
ハナミズキが紅色を輝かせ
四月が五月が通りすぎ
かっこうの鳴き声が初夏の空気を震わせる
　学校の玄関を入り
　　かっこうのように元気に「おはよう」
　　と言ってみる
鳥は人間と同じように音の真似ができる限られた動物
ひょっとすると鳥は未来に向けてしゃべっているのかもしれない
臨床実習生証明書授与式
　今日も学校の玄関を入り
　　かっこうのように元気に「おはよう」
　　と言ってみる
鳥はさえずり、生きる糧を親鳥からもらい、
巣から飛び立っていく
14期生
みんなも自分なりにさえずることを覚えた
さあ、今　飛び立つ時だ　羽ばたけ、翔け
どこまでも広く遠く
　JUMP　JUMP　JUMP

（2016年7月　第14期生 臨床実習生証明書授与式にて）

2－4　なる

「なる！これでどうにかなる」と思えたのは僕が就職先が全く決まらず大学卒業を控えた 24 歳の 2 月のことだった。長たらしい名称のついている国立聴力言語障害センター聴能言語障害職員養成所という当時は日本に一校しかなかった ST の養成学校に受かったのだ。常にうつむいていた青春、なぜ生きるのか、なぜ生まれてきたのか、どうしたらうまく生きられるのか、友だちとどうかかわったらいいのか？その頃の僕はなぜ、どうしてに苦しめられていた。社会でつぶしのききそうもない僕が「これからどう生きて、何に成っていくんだろう」という不安に圧倒されそうな時期だった。

そんな僕だから、「なる」ということに関しては人一倍常に考えてきた気がする。そして、今は「なる」という言葉からさまざまなものを連想している。まずは、古事記。なりなりてなり余れるところと、なりなりてなり足らざるところありというなり。日本国の始まりには「なる、創り上げる」という思想があった。そして、本校の成田会にお世話になってからは「なる、育てる、育む」という思いが僕の中に湧き上がってきた。

さて、あなたがたには今日を境にして新たな ST 観を打ち立てるということが自ずと要請されてくるだろう。つまり、どんな ST になりたい？どんな ST に成長していきたい？ST となりなにをめざしていくの？ということがあなた方の大きなテーマになっていくことだろう。だから、「なる」ということを一生懸命に考えていってほしい。「自分という人間はなにから成っているのか？」「自分は何をめざし何になっていくのか？」という二つの「なる」だ。自分自身の成り立ちを問う「何々からなる」と自分自身を鼓舞しながら問う「何々へとなりゆく」ということを常に問うてもらいたい。自分が掲げる理想の ST になるためには「しなる」こと、自分を柔軟に変えることが必要になるだろう。また、「成りこむ」ことが必要になるだろう。そう、先輩 ST に学び習いいつか追い越して ST という道を深く耕していってもらいたい。

ことばは不思議だ。「なる」ということを考えていくと、僕の言葉はなかなか収斂していかず拡散していく。ナルキッソス、ナルシシズム、なるべく、なるほど、鳴門海峡そしてうずしお。うず潮に巻き込まれずに人生を渡っていけ、なるべくゆっくりゆったりと、なるほどなるほどと自分の生き方を確認しながら。

さあ、今日は新たな出発の日だ。高らかに額田王の歌を歌おう。「熟田津に船乗りせんと月待てば潮もかなひぬ今は漕ぎ出でな」。準備万端整ったのだ。さあ、勇をふるってリハビリテーションという世界に一歩を踏み出そう。そして、ことばの海を楽しみながら渡り抜いていこう。今日は臨床実習生証明書授与式。あなたがたのケーシー姿は初々しくまぶしく見えます。おめでとう。

（2017 年 7 月　第 15 期生　臨床実習生証明書授与式にて）

2－5　変身

皆よりずっと長く生きてきたこのわたしが変身をとげている。朝、学校の階段の一歩目を踏みしめる。その時、“職員室のある 4 階までの階段を 10 往復する”と自分が掲げた日々の目標が成し遂げられるかを思ってニコリとする。

さて、この歳にして料理を作り始めた。かれこれ 2 か月が経過する。3 年生の岩本君がハンバーグを作ったと聞いたのは 1 か月以上も前のこと。「すごいね、すごいね」と称賛した。その僕が料理を始めて 1 か月目のこの 5 月に初めてハンバーグに挑戦した。玉ねぎをみじん切りにし、鍋にバターを入れ、炒め、合いびき肉と混ぜ、卵・パン粉を付ける。もちろん、塩・胡椒等での味付けも欠かせない。そして、両面を焼くと香り高いハンバーグが出来上がる。その間に、ソースを作る。そして、でき上った熱々のハンバーグを水割りを飲みながら食す。これがなんとおいしいのだ。やったーという気になる。達成感は次に進むエネルギーとなる。

もちろんいつも隣には専属のコーチ（妻だ！！）がいる。厳しくもやさしいコーチングをしてくれる。みそ汁さえ作ったことのないこの身。はじめ

はどうしていいか分からずただ名コーチの手さばきを見る。いいつけを守って千切りにしたり、塩やこしょうを適量かける（この適量というやつが難しいのだが）。隠し味にはワインや日本酒を入れるのだという気づきが楽しい。よく見、よく聞き、音に耳を澄まし、味見をする。じっくり時間をかけたり、すばやく仕上げたりする技も必要になる。初心者のわたし。わけもわからず戸惑い、何度も何度も同じことを見、聞き、やってみる。ドキドキする、反芻してみて振り返る、出来たときはうれしい思いがこみ上げる。

さあ、今日は臨床実習生証明書授与式。いよいよあなた方自身の ST 像を作り上げる日々が病院の臨床実習を通して始まっていく。料理づくり初心者のこのわたしのように始まりは何もわからなくてドギマギするだろう。今まで作り上げてきた知識が穴だらけで落ち込むこともあるだろう。しかし、この学校の ST 教官や病院のバイザーST は常に厳しくも温かいまなざしを送っている。ST の関わり方、声のかけ方、訓練の様子をしっかりと五感を通して把握しよう。そして、患者様に優しいまなざしを届けながらもしっかりと患者様のことば、様子、こころの声に五感を傾けよう。

作家村上春樹は小説の中でよく、ありあわせの食材での料理づくりの話を書いている。僕らもありあわせの能力と身体で一生懸命生きている。それぞれが異なったありあわせの能力にどのような味付けをして自分自身が理想とする ST になっていくのだろう？今日からまた新たな日々が始まる。ちょっとずつ自分を変えて、日々の楽しみを見つけ、一歩一歩理想に向けて上りつめていく。一つの頂きに着いたら、きっとはるか遠くに次に目ざす頂きが見えるだろう。仕事の喜びとは次にめざす頂きがはっきりと見えていること。さあ、日々、上機嫌に生き、感謝し、楽しみを見つけ、確かな知識を吸収し一つ一つ反復しながら技能を身につけていこう。患者様に合わせて自分を変えられる力をたくわえよう。実習を通して大きく変身していく自分をしっかりと見つめて歩みを進めていこう。今日は臨床実習生証明書授与式。あなた方にふるまうワインと料理はどんなものがいいのだろう。想像の中で僕は羽を伸ばし自由に羽ばたいていく。今夜はそれぞれがワインで乾杯し、祝杯をあげよう。

（2018 年 6 月　第 16 期生　臨床実習生証明書授与式にて）

2－6　「ただの人」として

あなた方は長野医療衛生専門学校の扉を開け ST という専門職への道を歩み始めた。入学という第一の扉を開けてみたら、腰を抜かすほどの分厚く情報量の多い教科書が山をなして配られた。私に、やっていけるだろうか、わからない、どうしよう・・・。そうこうするうちに実習という第二の扉が開いた。養護学校では子どもを追い回すだけの自分だったが子どもに直に接することで自分の中にため込んでいたエネルギーに少し火がついた気がした。そして、第三の扉が開きデイサービスセンターのライオンハートと発達支援通園施設の蓮の音での修練が始まることになった・・・。

山ほどの勉強と緊張みなぎる実習で大変なそんなあなた方に、佐藤房男という失語症者が飛び込んできた。来るなりいきなり林 ST と失語症漫談を披露し、踊り狂い、リアルな独り芝居「僕のことばは零なんです」を見せてくれた。そして、50 数人の生徒が見守る中、明るく朗らかに学生と受け答えをし、熱心に一生懸命学生の行う検査に取り組んでくれた。検査の結果は音韻把持能力が特に落ち込み、喚語困難と音韻探索が顕著であることを示していた。そんな佐藤さんから皆はどんなものを受け取ったのだろう。情熱、明るさ、微笑み、許容、柔軟、前向き、やる気、誠実、真摯といったものだろうか。

僕が今回、一番こころに残ったのは林 ST に初めて病院で出会ったときの印象はと学生に訊かれて佐藤さんが「ただの人」でしたと答えてくれたことだった。脳出血直後の脳の血種除去術の後、頭蓋骨も外された状態で、ことばもままならない状態で会った林 ST はまさに「ただの人」だった。

このことばに僕は唸った。専門家というのは、

急性期の患者から見て「ただの人」から「専門家」になり、「ただの人」に帰っていかなくちゃいけないんだなあという感慨が湧いてきたのだ。患者さんが自立していくということの中には、「あのSTさんは今でもユーモアを絶やさず頑張っているんだ。人生をただの人として、夢をもって一生懸命生きているんだ。自分もそれに負けず劣らず張り切って今与えられた生を精いっぱい生きよう」ということが含まれているんだと思う。「ただの人」。宮沢賢治が書いた「雨ニモマケズ」が思い出される。

　あらゆることを/自分を勘定に入れずに/よく見聞きしわかり/そして忘れず。

患者さん・家族の苦悩、夢、生きがいを忘れず、佐藤さんのように障害があっても活き活きと目の前のことを一生懸命にやっていきたいと思う。これからもあなた方はいろんな扉を開けていくことだろう。開けて進んでいくたびにいろんな障壁も出てくるだろうが「ただの人」を忘れず前に進んでいこう。

（2019年7月　第17期生　臨床実習生証明書授与式を控えて）

3、最後に「ぐるっとなあ」の詩を

ぐるっとなぁ

脳腫瘍に侵されたK君から届いたハガキ
そこには林の水彩画が描かれ
太い字で／林の奥には／と書かれていた

ドキンとした

林の奥には何がある
僕の胸の奥には何がある
それが日常の僕の問いになった

目を閉じる
そこには祖父の太く暖かな手があり
「耕司はもう心配ない」という温もりに
溢れた簡潔な言葉があった

目を開く
そこには失語症のMさんがいた
口を開くといつもそこには「あいよー、あいよー」
という言葉があった

そのMさんが亡くなった
その途端Mさんの声が天から降って来た

「あいよー」「あいよー」は「愛よ！」「愛よ！」なんだよ、と
愛に包まれて生きなさい
愛しなさい　愛されなさい
大きなぐるっとが天啓のように降ってきた
愛は降っていた

病気になり大きなぐるっとを経験した人たちは
名前が初めて言えたと言ってはぐるっと喜び
言えなかったと言ってはぐるっと沈む

人生は大きなぐるっと小さなぐるっとに育まれている
森は海を潤し
海は森を育んでいる
世界は大きなぐるっとに彩られ循環している

言葉に障害を負った者たちは我々のこころを育て愛を育む
我々は言葉に障害を負った者たちのこころを育て愛を育む
人の世界も大きなぐるっとに彩られている

ぐるっとなぁ
ぐるっとなぁ
ぐるっとなぁ
この言葉を口ずさんでいると勇気が湧いてくる

ぐるっとなぁ
ぐるっとなぁ
ぐるっとなぁ

今年も季節がぐるっと動き春がやってきた
柳の木々に芽ぶきがやってきた
爽やかな風が柳をやさしく揺らしてる

ぐるっとなぁ
ぐるっとなぁ
ぐるっとなぁ
あいよー
あいよー
あいよー

爽やかな風に吹かれて僕のこころもふんわりと揺れている
（2007 年 4 月 1 日　長野失語症友の会２５周年記念　演劇にて）

（註）臨床実習生証明書授与式とは：
４年制の専門学校である本校では医療機関での臨床実習が 3 回課されている。1 回目は 3 年生の夏の 1 週間の見学実習、2 回目は冬 12 月の 3 週間の評価実習、3 回目は 4 年生の夏の 8 週間の総合実習である。そこで本校では 2014 年から実習前の 7 月に臨床実習証明書授与式という儀式を執り行い、3 年生が 2 年間の基礎学習を終了したことを認め、臨床実習の対象学生であると認定している。そして、この授与式において初めて臨床実習に旅立つ 3 年生の学生たちが決意表明を皆の前で披瀝し、それに対してはなむけのことばを贈っている。

受理日：2020 年 3 月 17 日